

スターバックスコーヒージャパン社長と役員の皆様

こんにちは。

私は韓国のごみ問題解決のための市民運動協議会の金美化という環境活動家です。

世界で最も店舗数の多いコーヒー専門店スターバックスが韓国に上陸したのは、2000年頃でした。スターバックス韓国の進出は、韓国に新しいコーヒー文化を作りました。

喫茶店で座って飲むというコーヒー文化は、路上を歩きながらコーヒーを飲む文化に変わってきましたし、その後コーヒー以外の飲み物や食べ物までもテイクアウトするということが流行となりました。

この流行は、全国的なコーヒーチェーン、ファストフードの増加となり、一日に4700万個の使い捨て容器が発生し、ごみの増加と資源の無駄使い、有害物質の増加という深刻な社会問題を引き起こしました。

韓国では、1995年から使い捨て用品の使用を減らすために、食堂での木製割りばし、爪楊枝、使い捨て容器などの使用を禁止する法制度を整備してきました。

しかし、スターバックスなどのコーヒーチェーン、ファストフードで排出される使い捨て容器の規制がなかったために、大規模なごみの発生を阻むことができませんでした。

私たちはスターバックスとマクドナルドなどのコーヒーチェーンとファストフードチェーンに対して、使い捨て容器の使用をやめ再使用容器を使用することを提言しました。しかし、各社ともこうした市民の提言を受け入れることはありませんでした。

以後、私たちはロッテリアと協議し、2002年に使い捨て容器を使用しないロッテリアファーストフード店舗を開設しました。使い捨て容器を使わなくても運営できるファーストフード店舗のモデルを成功させたのです。使い捨て容器を使わないファーストフード店は人気を集め、多くの国民へのよい広報となりましたし、ロッテリアのイメージアップにつながりました。

使い捨て容器を使わないファーストフードのモデル店舗に続き、政府と本団体は、2003年、すべてのファーストフード、コーヒーチェーンに、店舗内では使い捨て容器を使用しない自発的協約へ参加してもらうことに成功しました。さらに、店舗の規模別に使い捨て容器の使用を禁止する法制度化をつくりました。コーヒーショップでは、顧客が、使い捨て容器

を希望することもできますが、その場合はデポジットを支払います。この制度で、使い捨てカップの使用量は 80%以上削減されることになりました。

韓国では現在このような制度を実施しています。しかし、まだ完璧ではありません。私たちの団体では継続的なモニタリングを通じて、問題が明らかになれば、法制度をもっと補うように政府に要求しています。おそらく、法律はもっと強化されるはずで、企業は制度を守らなければ高い罰金などのペナルティを科されることになります。

私は、スターバックスコーヒージャパンに次のような意見を提言します。

社会が成熟するにつれて企業は環境的責任を自ら負わなければなりません。なぜなら、現在のように資源を浪費していたら、あと 50 年もすれば資源は枯渇します。私たちは現在の資源を最大限に節約して資源の枯渇を最小化しなければなりません。省資源は市民、政府、企業が一緒に努力しなければなりません。

企業が利潤のみを追求し環境を考慮しなければ、その企業は消費者から相手にされなくなるでしょう。

スターバックスで使う使い捨て容器は、一度使って捨てるので便利です。

しかし一度限りで捨てる使い捨て容器は、多くの木を切って作った紙や、石油からつくった化学製品です。石油から抽出した化学物質は埋め立てても腐らず、燃やせばダイオキシン、フロン、HCB などの有害毒性物質で再び地球環境を汚染します。木は地球の澄んだ空気と気候温度を維持し、清い水を作る生命です。

使い捨て容器を使わずに、地球を活かすことのできる方法が今切実に求められています。

韓国では企業が使い捨て容器の使用を自制しないため、法制度で使用ができないようにしました。しかし法で禁止することが、最善方法ではありません。

最も良い方法とは、まず、企業が先頭に立って使い捨て容器の使用を減らし、その上で、責任を持ってリサイクルするトップランナーとしての役割を果たすことだと考えます。企業が先頭に立つことで、企業イメージも高まり、さらに市民への普及啓発を行うことができます。

日本でも企業が実践しなければ、いつかは法制度を通じて規制することになるでしょう。現在、日本では韓国で施行しているような使い捨て用品の使用抑制の制政が検討されています。例えば、レジ袋は今後有料化される方針です。社会的な議論が深まれば、使い捨て

容器の規制政策も取り入れられるでしょう。

政府が法制度を通じて規制をする前に、世界的な企業であるスターバックスが日本国内において、使い捨て容器を使わなければ、世界中に良いイメージを発信するのみならず、本来の意味で環境に配慮した企業となるきっかけとなるでしょう。

もう一度スターバックスコーヒージャパン社長を含め役人の皆様に建議申し上げます。日本国内のスターバックスの店舗で、石油や木を切って作った使い捨て容器より何十回でも使うことができ、自然素材で作った再生容器であるマグカップやグラスに変えてください。

市民の健康と自然環境の健康のために。

よろしくお願い申し上げます。

2005年8月4日

ごみ問題解決のための市民運動協議会
金美化 拝